

IV

蕙園傳神帖



36 夜道を行く男と女



男女3人と従者に見える少年が道を歩く場面である。背景の空に見える三日月は、場面が深夜であることを示唆する。

登場人物のなか、女性は大きい巻上げ髪をし、長煙管をくわえていることから妓女である。髪は髷かまじを入れて編んだのか、大きくどっしりと見える。当時は高価な髷をふんだんに使い、髪型を大きくするのが最高の贅沢であった。半回装かまじチョゴリに、防寒用腕貫をしており、チマは裾を左から右へとたくし上

げて腰帯で留めている。当時の妓女は裾を引き上げてわざと下着が見えるようなチマの着方をし、ジュリッテチマと呼ばれたが、この図でも、たくし上げられたチマの下から幅の広い下着のパッチ（ダンソッゴッ）と刺し縫いパッチが覗いてみえる。その右の少年は妓女に付き添う従者であろう。行燈を下げて道を案内している姿である。

妓女の横に立つ男性は両班の普段着である中致莫の上衣を着ている。縁の広い黒笠をかぶり、笠紐を



- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 草笠 | 1 초립 |
| 2 防寒帽 (ナムバウイ) | 2 남바위 |
| 3 鉢巻 (網巾) | 3 망건 |
| 4 帽子飾り (烏銅笠飾) | 4 오동입식 |
| 5 上衣 (紅衣) | 5 홍의 |
| 6 帯 (細条帯) | 6 세조대 |
| 7 上衣 (小氈衣) | 7 창옷 |
| 8 巾着 | 8 행낭 |
| 9 扇子 | 9 접부채 |
| 10 パッチ | 10 바지 |
| 11 脚絆 | 11 행전 |
| 12 足袋 | 12 버선 |
| 13 皮履 (黒鞋) | 13 흑혜 |
| 14 帽子 (黒笠) | 14 흑립 |
| 15 帽子 (黒笠) のつばを摘む | 15 흑립의 양태를 쥐다 |
| 16 笠紐 | 16 갓끈 |
| 17 上衣 (中致莫) | 17 중치막 |
| 18 結び紐 (ゴルム) | 18 고름 |
| 19 巾着の飾り紐 (多絵) | 19 다회 |
| 20 防寒用腕貫 | 20 토시 |
| 21 刺し縫いチョゴリ | 21 누비저고리 |
| 22 香袋 | 22 향낭 |
| 23 裾紐 | 23 대님 |
| 24 卷上げ髪 | 24 엷은머리 |
| 25 長煙管 | 25 장죽 |
| 26 チョゴリ (半回装) | 26 반회장저고리 |
| 27 たくし上げたチマ (ジュリッテチマ) | 27 주릿대치마 |
| 28 腰帯 | 28 허리띠 |
| 29 下着のパッチ (ダンソゴッ) | 29 단속곳 |
| 30 刺し縫いパッチ | 30 누비바지 |
| 31 下男 | 31 동자하인 |
| 32 お下げ髪 | 32 땅은머리 |
| 33 チョゴリ | 33 저고리 |
| 34 防寒帽 (揮項) | 34 휘항 |
| 35 行燈 | 35 사각등롱 |
| 36 藁履 | 36 짚신 |
| 37 火防壁 | 37 화방벽 |
| 38 土壁 | 38 흙벽 |
| 39 柱 | 39 기둥 |
| 40 梁 | 40 도리 |
| 41 瓦屋根 | 41 기와지붕 |

長く垂らして、身なりにかなり気を使った格好である。やはり防寒用腕貫を着用している。その隣に立つ、鮮やかな紅衣と草笠の姿の男性は、別監と呼ばれる武官である。草笠には武官の正装時に付ける帽子飾りの虎鬚が外され、虎鬚を挿すための小さい筒の烏銅笠飾のみが見える。草笠の下には防寒帽をかぶっていることやすべての登場人物が防寒の服装をしていることから、場面の設定は冬の夜である。

朝鮮時代の妓女は宮廷や官衙に所属していた官妓

で、主に公的な宴会に音楽と舞踊を提供する役割をしていた。宮廷の宴会に出る妓女が足りない時には地方の官妓も動員されたが、地方から妓女を上京させ、その妓女に寝食を提供するのが妓夫であったという。妓夫の斡旋があれば、官妓でありながらも私的な宴席にも呼び出されていた。妓夫は武官の別監が多かったというが、冬の夜道に妓女と歩く両班の男性も妓夫の別監が設定した遊びに向かうのか、夜の遊興の様子を暗示した一場面である。(金)

37 大人の喧嘩



人々が行き交う中心街とは思えない、みすぼらしい家々が並ぶ下町の様相である。描かれた家はいずれも草葺きである。正面の家は妓房と呼ばれた遊郭だと思われる。門を構え、門の扉は観音開きで、門が設けられている。門前には妓女が1人立っている。長い煙管で煙草を吸いつつ見物しているのは道路上で展開する喧嘩である。2人の男が、何が原因か分

からないが、喧嘩を始めたのであろう。あるいはこの1人の妓女をめぐる争いかもしれない。右側の男性は紐を解き、着物を脱いで、裸になろうとしている。口げんかではなく、取っ組み合いの喧嘩に移ろうとしている。左側にやや気の弱そうな人物が2人の男性になだめられている。この男性が喧嘩相手であろうが、最初から喧嘩に負けていることが分



- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 草屋根 | 1 초가지붕 |
| 2 垂木 | 2 씨가래 |
| 3 火防壁 | 3 화방벽 |
| 4 帽子 (黒笠) | 4 흑립 |
| 5 笠紐 | 5 갓끈 |
| 6 鉢巻 (網巾) | 6 망건 |
| 7 上衣 (中致莫) | 7 중치막 |
| 8 チョゴリ | 8 저고리 |
| 9 パッチ | 9 바지 |
| 10 裾紐 | 10 대님 |
| 11 藁履 | 11 짚신 |
| 12 解れた髷 | 12 흐트러진 상투 |
| 13 上衣 (道袍) | 13 도포 |
| 14 結び紐 (ゴルム) | 14 고름 |
| 15 草笠 | 15 초립 |
| 16 帽子飾り (烏銅笠飾) | 16 오동입식 |
| 17 上衣 (紅衣) | 17 홍의 |
| 18 帯 (広多絵) | 18 광다회 |
| 19 上衣 (帖裏) | 19 철릭 |
| 20 脚絆 | 20 행진 |
| 21 皮履 (黒鞋) | 21 흑혜 |
| 22 笏 | 22 홀 |
| 23 髷 | 23 상투 |
| 24 顎鬚 | 24 가잠나룻 |
| 25 上着を脱ぐ | 25 상의를 벗다 |
| 26 角巾着 | 26 귀주머니 |
| 27 香袋 | 27 향낭 |
| 28 巾着の飾り紐 (多絵) | 28 다회 |
| 29 解かれた帯 (細条帯) | 29 땅에 떨어진 세조대 |
| 30 帽子のつば | 30 양태 |
| 31 帽子の上部 | 31 대우 |
| 32 壊れた黒笠を拾う | 32 떨어져 나간 갓을 줍다 |
| 33 卷上げ髪 | 33 엮은머리 |
| 34 鉢巻 | 34 머리띠 |
| 35 チョゴリ (半回装) | 35 반회장저고리 |
| 36 たくし上げたチマ (ジュリッテチマ) | 36 주릿대치마 |
| 37 下着のパッチ (ダンソグゴツ) | 37 단속곳 |
| 38 下着のパッチ | 38 바지 |
| 39 皮履 | 39 가죽신 |
| 40 長煙管 | 40 장죽 |
| 41 蹴放 | 41 하인방 |
| 42 門扉 | 42 문비 |
| 43 楣 | 43 상인방 |
| 44 明り窓 | 44 살창 |
| 45 門 | 45 빗장 |

かる。まだ衣服を乱していない。おそらく連れの2人が相手にならないようになだめているのであろう。反対側の右端には、1人の男性がしゃがんでいる。激しく興奮してかなぐり捨てて壊れてしまった帽子を、連れが拾って控えているのであろう。

(福田)

38 女性の沐浴空間

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 卷上げ髪 | 1 엷은머리 |
| 2 上半身裸 | 2 상반신을 드러내다 |
| 3 腿をさらける | 3 허벅지를 드러내다 |
| 4 お下げ髪先の飾り(デンギ) | 4 댕기 |
| 5 顔を洗う | 5 얼굴을 씻다 |
| 6 チマ | 6 치마 |
| 7 髪を洗う | 7 머리를 감다 |
| 8 シャガむ | 8 몸을 구부리고 앉다 |
| 9 ブランコ | 9 그네 |
| 10 チョゴリ(三回装) | 10 삼회장저고리 |
| 11 下着のパッチ | 11 바지 |
| 12 皮履 | 12 가죽신 |
| 13 ブランコに乗る | 13 그네를 타다 |
| 14 チョゴリ(半回装) | 14 반회장저고리 |
| 15 編んだ髪 | 15 땡은머리 |
| 16 チョゴリ(ミンチョゴリ) | 16 민저고리 |
| 17 結び紐(ソクゴルム) | 17 속고름 |
| 18 風呂敷包み | 18 보따리 |
| 19 頭上運搬 | 19 머리에 이고 나르다 |
| 20 胸を露出する | 20 젖가슴을 노출하다 |
| 21 前掛け | 21 앞치마 |
| 22 藁履 | 22 짚신 |
| 23 修行僧 | 23 사미승 |
| 24 坊主頭 | 24 까까머리 |
| 25 岩の間からのぞき見る | 25 바위 사이로 훑쳐보다 |



妓女と思われる女性達が、川辺で沐浴や身繕いをし、ブランコに乗って遊んでいる姿が描かれている。端午の頃と思われる。

川辺では、4人の女性が沐浴をしている。手で腕、頭や顔などを洗っている姿である。全身ではなく、体の一部のみを洗うもので、部分浴と言える。いずれの女性も上半身裸となって、チマは着衣したままである。3人の女性が座っており、1人は後ろ向き

であるが、残る2人の座り方がよく見える。腰を降ろし、太股の間にチマを垂らしており、いずれも、踵を地面につけてしゃがんでいる。後ろに立っている女性は、チマの裾を太股まであげている。

右上では、木の根本で2人の女性が髪を整理している。1人は、木に寄りかかり、編んだ髪をいじり、1人は、頭に載せた髪を整理している。2人とも衣服を着ており、沐浴を終えた後の身繕い



と思われる。

木の枝に吊されていると思われるブランコで遊ぶ者がいる。三回装チョゴリを着て、紅いチマを穿いている女性だ。左足をブランコにのせて、これからはずみを付けて乗ろうとしているようだ。5月5日の端午には、古くからブランコに乗って遊ぶことがおこなわれた。

右側からは、女性が歩いて来ている。チョゴリの

下から胸が見えている。衣類を包んだ荷物を頭上運搬しており、下働きの女性であろう。

左側の岩の間には、坊主頭の男性が2人見える。若い修行僧であろう。岩と岩の隙間から、沐浴している女性達を盗み見ていることがその表情からよく分かる。(中野)

39 洗濯と沐浴

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1 帽子 (黒笠) | 1 흑립 |
| 2 鉢巻 (網巾) | 2 망건 |
| 3 笠紐 | 3 갓끈 |
| 4 上衣 (小整衣) | 4 창옷 |
| 5 弓籠手 | 5 아대 |
| 6 弓 | 6 활 |
| 7 矢 | 7 화살 |
| 8 チョゴリ | 8 저고리 |
| 9 パッチ | 9 바지 |
| 10 裾紐 | 10 대님 |
| 11 藁履 | 11 짚신 |
| 12 卷上げ髪 | 12 엮은머리 |
| 13 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 13 민저고리 |
| 14 チマ | 14 치마 |
| 15 下着のパッチ | 15 바지 |
| 16 裸足 | 16 맨발 |
| 17 砧で打つ | 17 빨래방망이로 두드리다 |
| 18 洗濯物 | 18 빨래 |
| 19 盥 <small>かもし</small> | 19 대야 |
| 20 髻 | 20 다리 |
| 21 荷包み | 21 붓집 |
| 22 髻を入れて髪を編む | 22 다리를 넣어 머리를 땡다 |
| 23 胸を露出する | 23 젓가슴을 노출하다 |
| 24 老婆 | 24 노파 |
| 25 上半身裸 | 25 상반신을 드러내다 |
| 26 たくし上げたチマ | 26 걷어올린 치마 |
| 27 腰帶 | 27 허리띠 |
| 28 洗濯物を干す | 28 빨래를 말리다 |



小さな溪流のほとりで洗濯する女性と、沐浴を終え、長い髪を編んでいる女性を描いている。溪流を挟み、画面左には弓をもつ若い男性がたつ。洗濯棒で洗濯をしている女性は額を覆うほどの大きな上げ髪をしており、庶民の婦女でありながらも、身だしなみに気を配る若い女性のようなのである。洗ったばかりの髪を編む女性は、髻かもしを添えながら大きい巻上げ髪を結っている。傍らには髻が置かれ、風呂敷の中にも髻が入っているのであろう。その後ろで上半身を露出し、洗濯物を広げる女性は巻き上げた髪が軽いうように見え、やや年配に描かれている。

朝鮮時代の一般的な洗濯方法は、溪流で平たい石の上に洗濯物を載せ、棒でたたいて垢をとるものであった。洗濯は、針仕事とともに、かなりの労働力と時間を要する家事であった。それは、当時の服は白の木綿が多く、何重にも下着を重ねていたので、洗濯の際は服をそのまま洗うのではなく、すべて解いて洗濯したためである。



厳しい労働にもかかわらず、洗濯場は女性に楽しい一時を提供する社交の場であり、日常の様々なできごとが語られる女性だけの情報交換の場の役割もした。朝鮮時代の女性は身分の上下とは関係なく、外出は厳しく制限されていたが、洗濯場は女性が自由にできる空間の一つであった。朝鮮時代は、「男女七歳にして席を同じくせず」という儒教倫理のた

めに、男女の同席や接触は厳しく禁じられていた。しかし、現実には洗濯や沐浴の場であった清流は、男女が触れ合う数少ない場所の一つでもあったようである。画面左の若い男性の目は洗濯場の女性に向けられており、図は厳しい儒教道徳にもかかわらず、わずかな隙間から覗かれるリアリティーのひとこまを表現したのであろう。(金)

40 音楽のある野の宴

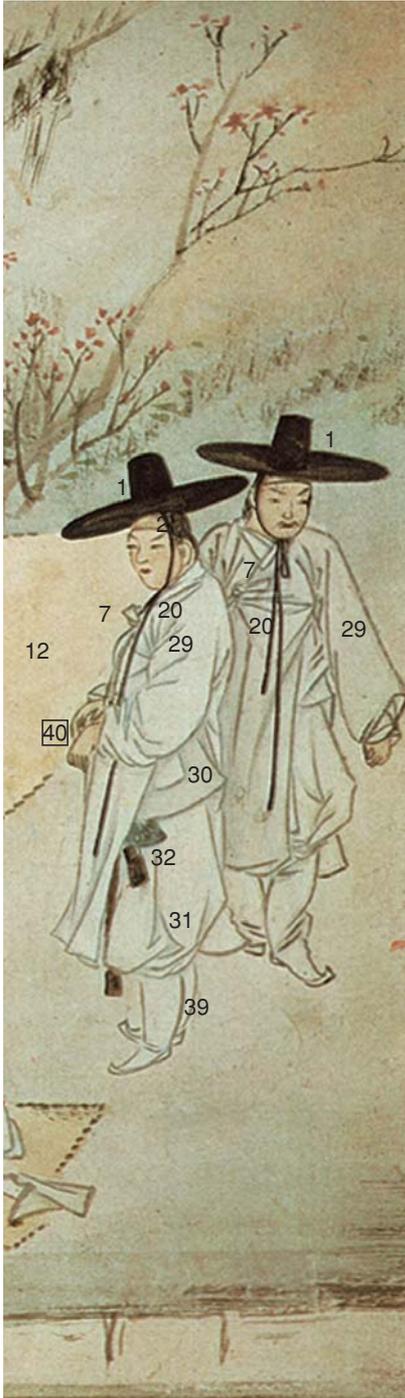


野外での宴の場面である。両班の男性が2人、妓女が2人、樂士が3人と右端には両班家の雑役を担う下男らしき2人の青年が描かれる。左端には下女が宴を盛り上げる酒を運んでいる。背景は岩山で、一見野外であるようだが、前方に見える池の周縁をめぐる石壇からは、官庁もしくは両班家の裏庭であるとも推測される。

2人の両班は竹夫人とよばれる抱き籠にもたれ

て、3人の樂士が奏でる音楽に聞き入っている様子である。2人は、薄い青色の上衣（道袍）に紫と紅の細条帯をしていることから、正三品以上の位の高い両班官僚であろう。3人の樂士が演奏するのは、画面左から大琴とよばれる横笛、胡弓、そして伽椰琴である。妓女に見える女性は大きな巻上げ髪をし、1人は長煙管を手をしている。

朝鮮時代の妓女は、基本的には国に属していた公



- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 帽子 (黒笠) | 1 후립 |
| 2 鉢巻 (網巾) | 2 망건 |
| 3 解けた笠紐 | 3 풀어진 갓끈 |
| 4 鬢鬚 ^{びんひげ} | 4 채수염 |
| 5 上衣 (道袍) | 5 도포 |
| 6 襟 | 6 깃 |
| 7 結び紐 (ゴルム) | 7 고름 |
| 8 房帯 | 8 솔띠 |
| 9 長煙管 | 9 장죽 |
| 10 煙草入れ | 10 쌈지 |
| 11 片手を地面につく | 11 한손으로 바닥을 짚다 |
| 12 筵 | 12 돛자리 |
| 13 竹夫人 | 13 죽부인 |
| 14 巻上げ髪 | 14 엮은머리 |
| 15 チョゴリ (半回装) | 15 반회장저고리 |
| 16 結び紐 (ソクゴルム) | 16 속고름 |
| 17 チマ | 17 치마 |
| 18 片膝立てをして膝を抱える | 18 한쪽 무릎을 세우고 무릎을 안다 |
| 19 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 19 민저고리 |
| 20 笠紐 | 20 갓끈 |
| 21 帯 (紅細条帯) | 21 홍세조대 |
| 22 扇子 | 22 접부채 |
| 23 お下げ髪 ^の 先飾り (デンギ) | 23 댕기 |
| 24 腰帯 | 24 허리띠 |
| 25 たくし上げたチマ (ゴドルチマ) | 25 거들치마 |
| 26 膳 | 26 소반 |
| 27 酒瓶 | 27 술병 |
| 28 盃 | 28 술잔 |
| 29 上衣 (小氈衣) | 29 창옷 |
| 30 チョゴリ | 30 저고리 |
| 31 パッチ | 31 바지 |
| 32 角巾着 | 32 귀주머니 |
| 33 帯 (細条帯) | 33 세조대 |
| 34 横笛 | 34 대금 |
| 35 胡弓 | 35 해금 |
| 36 弓 | 36 악궁 |
| 37 火鉢 | 37 수로 |
| 38 伽椰琴 | 38 가야금 |
| 39 脚絆 | 39 행전 |
| 40 両手を重ねる | 40 두손을 맞대다 |

賤であった。柳得恭（1749～？）の『京都雜志』（18世紀末）によると、都城には内医院と惠民署の医女および工曹や尚衣院の婢が妓女として使われ、宴會に動員されたが、地方の官衙に属する官妓は、妻を帯同せず辺境に赴いた軍人や地方官吏の伽とぎをしたとされる。官僚が公賤である官妓を私的に扱うことは禁止されていたにもかかわらず、李能和の『朝鮮解語花史』（1926）には両班官僚が官妓を私物の

ように取り扱った例が数多く取り上げられていることから、実際には官妓を私用する両班は珍しくなかったようである。図の中の両班も、私的な遊びに樂士を呼び、官妓と興ずる姿として表されている。朝鮮時代の両班であれば、道徳的で禁欲的な士大夫を連想するが、それとは異なる両班官僚のイメージが描き出された場面である。（金）

41 小料理屋



都会の小料理屋の風景である。登場する人物は、女将とその左に立つ若い男性、そして客と思われる5人の男性である。板の間の前に竈が置かれており、そこで調理していたことが分かる。板の間には食器棚、米櫃がおいてあり、上には大小の壺が置かれているなど、一見普通の所帯道具のように見え、いわゆる酒幕と呼ばれた居酒屋兼宿屋とは異なる。画面の下部には瓦葺の屋根が見られ、周囲は住宅に囲まれていると推測される。

女将は、袖先が青、襟と結び紐のゴ름が紫の半回装チョゴリを着ているが、それは夫と子供のいる

既婚の女性の服装である。飲み屋の女将は、年を取って妓女の仕事から退いた人が多いとされるが、^{かもじ}鬘を入れて大きく巻き上げた髪型や洗練された服装から、この女将も妓女出身の既婚の女性であると思われる。都会の小料理屋や飲み屋は、市井の遊び人が妓女出身の女性を女将に立て、飲み屋を営んだとされる。

女将の隣に立つ若い男性は飲み屋の使用人であろう。酒を運んだり、料理用の火を起こすことなど、雑役をしたとされる。

客は画面右側の5人の男性である。杓子で酒を注



いでいる女将の近くに立つ3人はまだ料理屋を発とうとする様子ではないが、右側の2人は帰ろうと催促をしている様子である。箸でつまみを摘んでいる紅衣の男性は、別監という武官、扇子を持って出発を催促しているしぐさの男性は青い帖裏を着ていることから武官である可能性があり、そして右の男性も軍服の鶺鴒を着ていることから羅将という武官であることがわかる。都会の小料理屋の客が両班士大夫ではなく、武官を中心とした中人であるという設定が興味深い。(金)

- | | |
|---------------|------------|
| ① 女将 (酒母) | ① 주모 |
| 2 卷上げ髪 | 2 얽은머리 |
| 3 チョゴリ (半回装) | 3 반회장저고리 |
| 4 襟 | 4 깃 |
| ⑤ 跪く | ⑤ 무릎을 꿇다 |
| 6 袖口 | 6 거들지 |
| 7 腰帶 | 7 허리띠 |
| 8 チマ | 8 치마 |
| 9 杓子 | 9 구기 |
| 10 大鉢 | 10 분주 |
| 11 鉢 | 11 자매기 |
| 12 酒瓶 | 12 술병 |
| 13 湯呑 | 13 술잔 |
| 14 釜 | 14 솥 |
| 15 竈 | 15 부뚜막 |
| ⑬ 下働き | ⑬ 중노미 |
| 17 髻 (メンサントウ) | 17 맨상투 |
| 18 チョゴリ | 18 저고리 |
| 19 捲り上げた袖 | 19 걷어올린 소매 |
| 20 兵児帯 | 20 돌띠 |
| 21 パッチ | 21 바지 |
| 22 藁履 | 22 짚신 |
| 23 裾紐 | 23 대님 |
| 24 柱 | 24 기둥 |
| ⑮ 別監・官職 | ⑮ 별감 |
| 26 草笠 | 26 초립 |
| 27 笠紐 | 27 갓끈 |
| 28 鉢巻 (網巾) | 28 망건 |
| 29 上衣 (紅衣) | 29 홍의 |
| 30 箸 | 30 젓가락 |
| ⑯ 箸で摘む | ⑯ 젓가락으로 집다 |
| 32 帽子 (黒笠) | 32 흑립 |
| 33 上衣 (中致莫) | 33 중치막 |
| 34 髻 | 34 구레나룻 |
| 35 脚絆 | 35 행진 |
| 36 皮履 | 36 가죽신 |
| 37 帶 (細条帶) | 37 세조대 |
| 38 上衣 (帖裏) | 38 철릭 |
| 39 上衣 (靛衣) | 39 창의 |
| 40 扇子 | 40 접부채 |
| ⑰ 羅将・官職 | ⑰ 나장 |
| 42 帽子 (戰巾) | 42 갈대기 |
| 43 軍服 (鶺鴒) | 43 작의 |
| 44 結び紐 (ゴルム) | 44 고름 |
| 45 上衣 (帖裏) の襟 | 45 철릭의 깃 |
| 46 板敷 | 46 술청마루 |
| 47 食器戸棚 | 47 찬장 |
| 48 米櫃 | 48 뒤주 |
| 49 食器棚 | 49 찬탁 |
| 50 築地塀 | 50 판축담 |
| 51 瓦屋根 | 51 기와지붕 |
| 52 草屋根 | 52 초가지붕 |

42 巫女の舞と女性の願い

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 草屋根 | 1 초가지붕 |
| 2 垂木 | 2 씨가래 |
| 3 風呂敷(褌) | 3 보 |
| 4 猫足膳 | 4 개다리소반 |
| 5 風呂敷包み | 5 보따리 |
| ⑥ 巫女 | ⑥ 무당 |
| 7 帽子(朱笠) | 7 주립 |
| 8 笠紐 | 8 갓끈 |
| 9 卷上げ髪 | 9 엷은머리 |
| 10 扇子 | 10 접부채 |
| 11 上衣(帖裏) | 11 철릭 |
| 12 結び紐(ゴルム) | 12 고름 |
| 13 帯(広多絵) | 13 광다회 |
| 14 袖引き | 14 매듭고리 |
| 15 チマ | 15 치마 |
| 16 筵 | 16 돛자리 |
| ⑰ 頬杖をつく | ⑰ 턱을 괴다 |
| 18 チョゴリ(ミンチョゴリ) | 18 민저고리 |
| ⑱ 片膝立て | ⑱ 한쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| ⑳ 両手をすり合わせて祈る | ㉑ 두 손을 비비며 빌다 |
| 21 米 | 21 쌀 |
| 22 チョゴリ(半回装) | 22 반회장저고리 |
| 23 かつぎ(チョネ) | 23 처네 |
| 24 髷(メンサントウ) | 24 맨상투 |
| 25 チョゴリ | 25 저고리 |
| ㉒ 石垣越しに見る | ㉒ 담너머로 보다 |
| 27 帽子(黒笠) | 27 흑립 |
| 28 鞆鼓(長鼓) | 28 장고 |
| 29 桴 ^{ぼち} | 29 장고채 |
| 30 黒笠の紐 | 30 갓끈 |
| 31 縦笛 | 31 피리 |
| 32 バッチ | 32 바지 |
| ㉓ 胡坐をかく ^{あくろ} | ㉓ 책상다리를 하다 |
| 34 枝折戸 | 34 사립문 |
| 35 石垣 | 35 돌담 |



巫女が行うクツと、その場に参与する者達を描いている。地面に敷物を敷き、その上で巫女がクツを行い、手前の敷物の上には、女性が4人座している。男性2人が楽を演奏している。

クツとは、民間の宗教者である巫女が執り行う儀式の一つで、様々な種類が知られているが、大略、鬼神を追い払い、安寧を祈願するものである。クツを行っている巫女は、笠を被り、武官の衣服を着用している。これは、鬼神を制圧する武士の力の象徴と見られる。前にいる楽人や女性達に向かって立ち、

両手を左右に広げている。扇には、金剛山らしき荒々しい山が描かれており、山神のクツを舞っているのかもしれないが、明確には分からない。

一般に、クツの際は祭壇を設け、線香、蠟燭、酒などを供えるが、ここでは供え物の一種と思われる小さな膳が屋内に見えるのみである。

中央に座している女性の前には小さなテーブルがある。上には白いものが載せられている。米であろうか。巫女は、クツのある段階で米を手や鈴に取って撒き、その散らばり具合から、吉凶を占うのであ



る。女性は左手に右手を重ねあわせている。両手をすり合わせて祈祷しているものと思われる。この女性が、クツの施主であろうか。

垣根越しに、1人の男性がクツの行われる庭の様子を窺っている。座った女性のうち、衣かつぎをした女性の顔と姿勢が、外に向かっている。男性の存在が気になる様子だ。その男性は、髷頭で網巾をしていない。身分が低い男と見られるが、形相がやや険しい。

描かれているのは、個人が施主となって行う小規

模のクツである。朝鮮時代、漢陽（ソウル）では、巫女に対する禁令がたびたび発せられ、巫女は城内への出入りができず、城外へ追いやられた。城外での活動まで禁止されたわけではない。村落単位の祭祀として、洞神祭や別神祭を多く管掌したほか、家の様々な信仰に深く関わっていた。このクツに女性のみが参与している点は、朝鮮時代の家庭祭祀が、女性によって担われていたことを示唆するだけでなく、それが現在にまでつながる伝統的なものであることも教えてくれる。（中野）

43 法鼓と招福の願い



法鼓は正月元旦の風物詩の一つで、僧侶が太鼓を町に運び出して打ち鳴らしながら布施をもらうことをいう。同時に法鼓は仏教行事に用いられる太鼓をも指す。洪錫謨の『東国歳時記』（1849）には、托鉢をする僧侶は仏とよい縁が結ばれることを祈願する募縁文を地面に敷き、木魚と鉦を鳴らしながら金や米の布施をもらおうと記されているが、図の中の女性は、金を取り出し布施をしようとする姿である。本来は仏教行事であった法鼓は、除災招福を願う年頭行事として民間に広がったが、正祖元年（1776）

に僧侶の都城への出入りが禁止されてからは城外で行われるようになったという。

興味深いのは、法鼓や鉦、木鐸を鳴らす3人と扇子を広げてお金の布施を乞うている人は僧服を着ていないということである。被り物も山形の頭巾をした1人を除いて草笠、タンゴン（宕巾）などで、僧侶の用いるものではない。仏教と関連する法鼓の名を借りて、街で護符などを売るサダンペ（寺党牌）と呼ばれた芸能集団かもしれない。布施を乞うている人が広げているのは、扇子ではなく護符のように



- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1 大太鼓 (法鼓) | 1 법고 |
| 2 太鼓台 | 2 북좌 |
| 3 桴 ^{ばち} | 3 북채 |
| 4 坊主頭 | 4 까까머리 |
| 5 チョゴリ | 5 저고리 |
| 6 パッチ | 6 바지 |
| 7 脚絆 | 7 행전 |
| 8 藁履 | 8 짚신 |
| 9 草笠 | 9 초립 |
| 10 結び紐 (ゴルム) | 10 고름 |
| 11 鉦 | 11 팽가리 |
| 12 冠 (宍巾) | 12 당건 |
| 13 木鐸 | 13 목탁 |
| 14 帽子 (黒笠) | 14 흑립 |
| 15 笠紐 | 15 갓끈 |
| 16 上衣 (中致莫) | 16 중치막 |
| 17 帯 (細条帯) | 17 세조대 |
| 18 防寒衣 (褙子) | 18 배자 |
| 19 皮履 | 19 가죽신 |
| 20 遮面扇 | 20 차면선 |
| 21 山形の頭巾 | 21 굿갈 |
| 22 扇子 | 22 접부채 |
| 23 腰を屈めて喜捨を乞う | 23 허리를 굽혀 시주를 구하다 |
| 24 かつぎ (チョネ) | 24 처네 |
| 25 チマ | 25 치마 |
| 26 下着のパッチ | 26 바지 |
| 27 かつぎ (長衣) の襟 | 27 장옷 깃 |
| 28 かつぎ (長衣) | 28 장옷 |
| 29 かつぎ (長衣) の結び紐 | 29 장옷 고름 |
| 30 袖口 | 30 거들지 |
| 31 かつぎ (チョネ) の紐 | 31 처네끈 |
| 32 卷上げ髪 | 32 얹은머리 |
| 33 お下げ髪 <small>の先飾り</small> (デンギ) | 33 땡기 |
| 34 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 34 민저고리 |
| 35 腰帯 | 35 허리띠 |
| 36 角巾着 | 36 귀주머니 |
| 37 巾着から銭を取り出す | 37 행낭에서 돈을 꺼내다 |
| 38 畳んだかつぎ (チョネ) | 38 접은 처네 |
| 39 チョゴリ (半回装) | 39 반회장저고리 |
| 40 たくし上げたチマ (ジュリッテチマ) | 40 주릿대치마 |

もみえる。女性は、無地の飾りのない服装で、他にも畳んだ衣被を頭上に載せる様子や、男性の前でチマをめくりあげ、巾着から銭を出すしぐさから、中人以下の平民か、もしくはチマを左から右へと回し、たくし上げている姿から妓女である可能性もある。

左下の男性は、黒笠に薄青の上衣(中致莫)を着ていることから両班と判断できる。右手に持った遮

面扇を下ろして、女性の一行を眺めている。遮面扇は男女の間に直接顔を合わせるのを避けるために用いるもので、扇子とともに両班男性の必需品であった。遮面扇で顔を隠さず、直接女性の一行を眺める両班男性の姿も興味深い。法鼓は、仏教行事から芸人による街のパフォーマンスへ変容し、打ち鳴らされたのである。(金)